

横国大学生ら C.F.通じ資金集め

横浜国立大(横浜市保土ヶ谷区)の学生らが、南米のパラグアイのスラム地域を支援するため、クラウドファンディング(C.F.)を通じた資金集めを始めた。現地の青年らと協力し、住民が栄養について学ぶ講座の開催やコミュニティセンターの建設を目指す。プロジェクトを担当する藤掛洋子教授(開発人類学)は「同じ地球上に生きる人間として、途上国の人たちに思いをはせてほしい」と協力を呼びかけている。【杉山雄飛】

資金を集めるプロジェクトは、栄養や性感染症に関する講座などを開く「生活改善」▽住民が集い、居場所のない子どもも駆け込める「コミュニティセンター」の建設の二つだ。C.F.は、

資金を募って支援する アイに4週間ほど渡航しカタウラ地区は、パラグアイの首都アスンシオン郊外にあり、同国最大のゴミ集積地区とされる。住民の中にはゴミの分別で生計を立てる人も多く、性暴力など治安面での問題も絶えない。藤掛教授のゼミ生らは毎年1回、国際協力の実践などを学ぶためパラグアイに4週間ほど渡航している。学生も2013年からは、藤掛教授が代表のNPO「ミタイ・ミタクニヤイ子ども基金」と協力し、現地での学校建設などの支援に取り組んでいる。C.F.への挑戦は2回目で、16年には約100万円を集めて農村部の小学校の教室を増設した。

横国大の学生らが現地の若者による支援団体「フベンスール」と15年

南米の貧困地域支援を

生活改善講座や施設建設



スラム地域の子どもに栄養について教える学生ら＝藤掛教授提供

から議論を重ね、二つのプロジェクトが必要と判断した。C.F.プロジェクト代表の同大3年、齋藤幾日さん(22)は「自分の街を変えたいと動く現地の人々の姿を見て、自分も協力したいと思った」と語る。藤掛教授は「大学の授業を超えて頑張りたいという学生の気持ちが未来をつくる。世界を知り、人の痛みに寄り添う力を身につけてほしい」と話す。募金は30000円から。C.F.のホームページは<http://readyf.or.jp/projects/catoura-mitai>